

柎の木からの手紙

2026年 弥生 3月号



2026年3月3日の皆既月食

部分食の始まり	18時49分
皆既食の始まり	20時4分
食の最大	20時33分
皆既食の終わり	21時3分
部分食の終わり	22時17分

- 3日： 満月 :旧 1月15日
皆既月食 18時50分頃から
5日： 啓蟄
11日： 東日本大震災 2011年3月11日
19日： 新月 :旧 2月1日
20日： 春分
28日： 裏千家利休忌

「和敬清寂」

1月10日(土)早朝NHKテレビで、裏千家前御家元 千玄室 さんのアーカイブ放送を行っていました。本人は、昨年8月14日に102歳で逝去されていますが、1椀のお茶を通じての平和へのあゆみが伝えられていました。

お茶というと、思い出すのは歴史の教科書の織田信長・豊臣秀吉の時代の千利休。

(上記資料は、群馬天文台より掲載) 現代では、表千家とか裏千家とか聞きますが何のこと？

千利休から3代目の千宗旦には、4人の男の子がいて長男は千家を継がず、紀州徳川家に仕えた3男が千家を継ぎ、母屋に不審庵を作り「表千家」として茶道を広めた。4男宗室は、母屋裏に茶室「今日庵」を作り「裏千家」として茶道を広めた。また、加賀前田藩に仕えた2男の千宗守は「官休庵」を作り「武者小路千家」として茶道の3つの流派として活動しました。

今回、NHKで取り上げられていた千玄室さんは、学生時代に学徒出陣で海軍に入隊。特攻隊員として待機する中、終戦を迎えました。戦時中は、特攻隊として出撃して行く仲間に茶を点てて振舞っていました。出撃する仲間に茶を点てる行為は、命の尊厳を守る最後の祈りだったのです。そんな千玄室さんは、戦後80年間、海外70ヶ国以上、1椀のお茶で平和を訴えてきました。地球に見立てた丸いお椀。その地球の中に緑がある。そんな1椀のお茶文化が世界を繋ぐ。そんな思いで平和を訴えてきました。

「和敬清寂」個性を融合し相手を敬い、清らかで言葉に頼らない豊かさを創出できるころ。



2月14・15日小学生プログラミング体験活動を2名で構成する「オホーツクの風」という団体として提供しました。この冬2回目となる今回は、中学生対象ですが、参加者が集まらず小学生に募集したら3名の参加を戴き、しかも全員親子で全行程を体験してくれました。この冬は、こころ豊かな明日の為に電子ピアノ作りを体験しています。